学校通信　椙小　９月号
２０１６（平成２８）年　９月１日
椙山女学園大学附属小学校

南紀とコリジンの宿泊行事より

校　長　　森　　和　久

皆さま、この夏はいかがお過ごしだったでしょうか。お子様は、長期の休みを生かして、充実した経験を幾つかされたことと思います。学校においても１学期の終業式以降、高学年の宿泊行事が続きました。その中で私が出会った子どもたちの素晴らしい姿を紹介します。

１つ目は、６年生の南紀の生活です。そこには、輝くばかりに明るく、そして真摯な子どもの姿がありました。

７月２０日から、２泊３日で和歌山県南紀勝浦に出かけました。（５年生は三重県浜島、４年生は岐阜県郡上です。）南紀での主なプログラムは、熊野古道を歩くことと、「勉強」をすることです。熊野古道は、大門坂から那智の滝までを歩きますが、暑い中、かなりの上りがあり、少しきつめの行程ですが、みなへこたれずに歩くことができました。そして「勉強」は、算数、国語の問題集に取り組むとともに、南紀に関する新聞づくり、そして英語のレッスンを行いました。合計８時間以上の学習時間でした。自分でどんどん問題に取り組んでいき、わからない問題があると教師に聞きに行きます。学習中の子どもたちは真剣そのもので、私語一つありませんでした。

宿泊中、２回ほど担任に注意を受けたことがありました。集合時間に遅れたグループがあったこと、食事中、少しさわがしくなったことです。静かに担任から注意を受けると、その後の修正はすばらしく、よく考えてさらに規律ある行動を取ることができました。

このように書くと、厳しい合宿をしているかのようですが、とても明るくて元気で、バスの中では、誰からともなく歌声が広がり、いつの間にか全体での合唱になります。その歌声の明るい美しさにバスガイドさんも驚いていました。

明るさと真摯さを併せ持ち、切り替えができる素晴らしい椙小っ子の姿でした。

２つ目は、７月２５日から１１日間、希望者参加の語学研修に５・６年生１７人で行ってきました。ここでは、小さな“ｐｉｏｎｅｅｒ”とでも言うべき、明るくたくましい子どもの姿が見られました。

語学研修のメインは、西オーストラリアの地方都市コリジンでの６日間のホームステイと現地校での語学研修です。

英語でしか言葉が通じず、文化の違う初対面の人たちの中で、初めはとまどいも見られました。「何を言っているかわからない」「お家へ帰りたい」という言葉も一部から聞かれましたが、ホームステイ先の子どもたちと体を動かして遊びまわったり、そこで飼われている様々な動物たちと触れ合ったりする中で、どんどん馴染んでいき，「少々言葉が通じなくても、大抵のことは何とかなるよ」というたくましい言葉も聞かれるようになりました。そして、ホームステイ先の方々、現地の学校の子どもたちとの交流を通して、文化・環境の違いを理解し合う国際人としての感覚を身につけていきました。

親元を離れての１１日間は、不安も多かったと思いますが、それを乗り越えたことは大きな自信つながったことと思います。

明るさを基盤にした，たくましさと真摯な姿、椙小の子どもたち持ち前の素晴らしさを改めて強く感じることのできた２つの宿泊行事でした。

この２つの例以外でも、子どもたちは、きっとこの夏休みに「強く・明るく・美しい」姿を見せてくれたことと思います。その充実した経験を、２学期以降の学校生活に生かしてくれることを期待しています。